

# やお・かしわら

たいせいしょうぐんじ  
大聖勝軍寺

勝軍寺は聖徳太子の創建と言われている。南河内郡太子町にある叡福寺を上の子と呼ぶのに対して下の太子、または太子堂と呼ばれる。寺伝によると聖徳太子が仏教の導入をめぐり河内国渋川の阿都の館にいた物部守屋を討つ際、戦況が一時不利になったが、この地の棕樹の蔭に隠れて難を逃れ、後に信貴山毘沙門天に祈願し、四天王を祀り勝利したことで創建されたと言う。縁起によれば当初は、寺域 16 町を有し、上宮王院、清涼院、日羅院、地藏院、修善院などの支院を持っていたが、後世数度の兵火に遭い縮小している。門前の小さな池は、秦河勝が物部守屋の首を洗ったとの言い伝えがあり、守屋池（守屋首洗池）と言われている。また、近くには守屋の墓がある。

奈良街道（国道 25 号線）に面して「山



本堂「太子堂」



山門から境内を見る



神妙棕樹

所在地：八尾市太子堂 3-3-16  
最寄駅：JR 大和路線「八尾」駅から南西へ約 15 分  
見学：境内は自由  
TEL：072-922-3000

門」がある。境内の中心に本堂「太子殿」があり、守屋との戦い後、太子自ら 16 歳の肖像を刻み安置したと伝えられる。

また、「毘沙門堂」は、太子が一時信貴山に難を逃れ、戦勝祈願し下山後、毘沙門天の化身が現れ守屋との戦いに勝利したことから、太子自らが毘沙門天を刻み、祀ったと伝えられる。山号「神妙棕樹山（しんみょうりょうじゅさん）」の由来は、太子の軍勢が守屋の軍勢に包囲され絶体絶命の窮地に陥った時、棕の大木が真っ二つ割れ、太子はその幹の空洞に身を潜め、九死に一生を得たと言われているが、今も棕の大木が大切に祀られている。

お盆の行事「絵どうろう（万灯会）」は、勝軍寺の境内全体が幻想的な世界となる、八尾を代表する行事の 1 つである。

（新田俊明）